大学院大学としての金沢大学医学部にもとめられるもの

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小川, 智 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/17189

大学院大学としての金沢大学医学部にもとめられるもの

The Role of Kanazawa University as a Graduate Schools of Medical Science.

金沢大学大学院医学系研究科
脳医科学専攻神経分子標的学
（解剖学第三）
小　川　　智

医学部が医学生を育てるのに対し，大学院である医学系研究科の仕事は大学院生を教育することにあり，医学研究者を世に送り出すことにある．金沢大学医学部の前身である金沢医科大学が最初に医学博士を世に送り出したのは1924年（大正14年），その研究内容は人工血液に関するものであった．当時の学位論文を眺めると，本学において学位論文として審査の対象となった研究は多岐にわたっている．この時代の国民病であった結核や，種々の伝染病の治療に関するもの，当時の最先端医療であるX線撮影に関するものなどが目立つ．また，人工血液や外傷の治療法など，戦争に関連した医療技術に関するものも散見される．すなわち，本研究科は発足当時から当時から社会のニーズに応え最先端の医学・医療技術を提供してきたのである．

戦後，教育の近代化に伴い，金沢大学医学部には，1955年に大学院が設置され，近代的な教育機構として生まれ変わることになる．そして，2001年には，大学院の部局化により，医学科は大学院大学研究科としての新たな一歩を歩み出した．本学の大学院部局科の理念は，目的指向型の大学院教育にある．すなわち医学系研究科には，循環医科学，脳医科学，がん医科学，環境医科学の4専攻が設置され，統合されたカリキュラムで大学院生の教育を行っている．この間，1924年の最初の学位審査から80年間，昨年度末までに本学が世に送り出した研究者(医学博士)は3,400名に上る．

大学院制度は長年にわたって我が国の医学・医療に関する研究を支えてきたが，この数年，新医師臨床研修制度や専門医の多様化，さらに医師の専門医指向はたかまるばかりである．現状ではこれまでのように十分な研究者数を確保することが出来なくなるのではないかとの危惧が生じている．また，地方における医師不足は深刻化しており，果たして，これまで通りの大学院教育が成り立つのかどうか，不安因子は増すばかりである．ちなみに，2005年度の調査では，医学系大学院の定員充足率は極めて悪く，定員割れとなっている大学は8割近くに達している．

医学研究科の責務は，社会のニーズに応える優れた医学研究者を世に送り出すことにある．医学系研究科はこれまで，医学部の卒業生を対象にし，医学研究者を育てることに重きを置いてきた．ところが，医療技術の進歩・高度化に伴って医学部卒業生の臨床重視傾向は増すばかりである．医学研究者の不足を補うべく，本学は2004年に医学系研究科に修士課程を設置した．従来まで，医学系研究科には博士課程のみがおかれていたため，医学科卒業生(医師)以外の学生を受け入れることが出来ず，博士課程への入学を希望するものは，いったん，他の研究科で修士課程を修了する必要があった．修士課程の設置によって医学科では他学部卒業者に医学研究者となる門戸を開くとともに，修士・博士課程の一貫教育が可能となった．本学だけでなく，全国的にも，修士課程の設置に踏み切った医学系大学院は多く，2007年度では全国80校中，42校がすでに設置あるいは申請中である．

臨床指向者の研究離れを何とか食い止めることも，本研究科だけでなく我が国の医学系大学院に課せられた責務である．文部科学省は，2005年に従来までの「一専攻一到達目標」という概念を捨てた．すなわち医学系研究科においては，研究者養成を目的とする従来のコースだけでなく，研究マインドを持った臨床医を養成することを目標とする新たなコースを立ち上げる必要性に言及した．この文科省の画期的あるいは異例とも思われる答申によって，博士課程のカリキュラムに専門医等の取得のための教育を取り入れ，専門医修得を目指すコースを併設することが可能となった．本学でもこの答申に応じる形で，来年度より臨床研修を主たる目的とするコースを設置，学外で臨床の第一線に立つ医師に対してもこのコースを開放する予定である．

同時に，文科省は大学院教育の実質化を要求している．従来まで大学院の教育は「徒弟制度」と評されるように，大学院生は指導教員から直接，実験方法や研究概念を教わることが多かった．しかし，実質化された大学院教育では，教員は大学院教育の到達目標と授業計画を立て，それを学生が確認し選択する．また，厳格な評価を行い目標に達した学生には単位を与える．このように，大学院教育は「徒弟制」から，「契約制」の教育へと変貌しつつあり，本学でも多くの博士課程講義が立ち上がっている．

IT技術を応用した大学院の教育改革も進んでいる．大学院教育に携わる教員の負担を少しでも軽減すべく，複数の大学院間をインターネットで結び遠隔講義システムを用いて講義を共有する試みが始まっている．2007年に北陸地域の医系大学が共同して申請した北陸がんプロフェッショナル養成プログラムでは，大学院教育の改革がメインテーマとなっている．この達成のため，大学院間での遠隔講義，e-learning技術を用いた学外での学習システムを大幅にとりいれた．医師だけでなく薬剤師，看護師，医療系放射線技師などを対象とし，融合型教育プラットフォームで高度専門教育を行う．IT技術を多用し，教員の講義負担の軽減と教育レベルの向上という，本来なら矛盾する2つの目標を同時に達成しようとしている．

時代のニーズに応えて，最先端の医学・医療技術を提供するのが医系大学院に課せられた使命である．それにまして，多彩な学生のニーズに応えなければ，医系大学院は生き残れない．